

『偽物だと敵国に追放されましたが、どうやら本物の聖女は私のです。』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『偽物だと敵国に追放されましたが、どうやら本物の聖女は私のです。』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『偽物だと敵国に追放されましたが、どうやら本物の聖女は私のです。』を読んだことのある10代～50代の男女16名
調査期間	2026年3月4日～2026年3月5日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/nise-monodatotekikokunituihousaremasitaga/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 『偽物だと敵国に追放されましたが、どうやら本物の聖女は私のです。』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

20代男性	0人
20代女性	0人
30代男性	0人
30代女性	0人
40代男性	0人
40代女性	12人
50代男性	4人

50代女性	0人
-------	----

Q2:『偽物だと敵国に追放されましたが、どうやら本物の聖女は私のです。』の感想を教えてください。

1巻	<p>ネイトの行動はひどすぎました。婚約破棄だけでも十分ですが、偽の聖女の罪をでっちあげてまでアマリスを抹殺しようとするなんて許せません。彼には相応の罰を受けてほしいです。気になったのは、聖女の杖がカルラに反応したことです。聖女の杖はアマリスに反応したのですから、カルラが聖女のはずはありません。それなのに、カルラが手にすると聖女の杖は輝きます。一体どんなトリックを使ったのか知りたくなりました。</p>
1巻	<p>義理の母からは苛烈な暴力をふるわれ、異母妹と婚約者からは陥れられ、牢屋に入れられてしまったにもかかわらず、自分がこの先どうなるかよりも民衆のことを案じることができるアマリスの心があまりにも清らかで、衝撃を受けました。偽聖女モノは本当にヒロインが偽物の場合もありますが、アマリスは本物だと思うので、だとしたら何故杖がカルラに反応したのか、カラクリが気になりました。</p>
1巻	<p>過去回想から察するに、ネイトはアマリスこそが本当の聖女だと承知の上で彼女を亡き者にしようとしたようで、カルラに騙されているわけではない点が珍しくて新鮮だと感じました。また、たった1人だけ優しく接してくれたラッセルがヒーローポジションではなかったり、実父は後妻の横暴を見て見ぬふりしてただけで積極的に虐待に加担していなかったり、定番とはちょっと違う設定が面白いと思いました。</p>
1巻	<p>伯爵家の娘でありながら義母に虐げられて、まるでシンデレラみたいと思いました。やはり意地悪な姉、ならぬ妹がいました。氷の聖女って、そりゃこんな境遇にいたら無表情にもなっちゃうでしょう。見た目で判断するネイトと婚約者にならなくて正解。とにかく不遇続きのアマリリスに、幸せになってほしいと強く願っています。</p>
2巻	<p>ヴィクターたちは凄いですね。シュヴァール王国から奇襲を受けたら大変なことになると心配していましたが、それは杞憂でした。そうなる可能性を理解していたため、もし不意打ちを受けても対応できていたように感じます。ライズ王国は優秀な人材が揃っている国だと感心しました。カルラが本当に聖女なのか気になりました。ネイトから聖女の杖について尋ねられた時の反応が変だったんです。もしかすると、先日聖女の杖がカルラに反応したのは何か細工をしたからではないでしょうか。実は聖女の杖を使えないのではないかと疑念を抱きました。</p>
2巻	<p>ロルフのように人の感情を感じ取る能力があったなら、義妹の本性なんてあっという間に見破ってしまうのに。まさか追放されてしまうなんてアマリスがとにかくかわいそう。でも、そのおかげで聖女としての力を持ってさらに魔法も身に付けた最強なヒロインとなれそうで楽しみです。黒髪のヴィクターが素敵で、少しずつ良い方向に向かっていって売っていくようにうれしい。</p>
2巻	<p>魔術師というと、どちらかというと悪だくみに加担するとかむしろ元凶となっているイメージがあったので、平和を願うという設定はめずらしく思いました。黒髪で素敵な男性で、ネイトなんかよりよっぽどいい。ヒロインに好意的な姿はこれまでで初めての状況で、ようやく幸せが訪れようとしているのだなとうれしくなりました。</p>
2巻	<p>まさか義妹に追放されてしまったヒロイン。顔はかわいくファッションは華やかかもしれませんが、とにかく嫌な奴で虫唾が走ります。そんな奴なんてどうなってもいい、戦争が起こって地位さえひっくり返ってしまえばいいのに。自分ならそう考えてしまいそうですが、平和を願うヒロインは本物の聖女です。魔法の力も得ることになるし、強くなれますね。</p>
3巻	<p>ヴィクターの指導が見事過ぎました。アマリスは魔法学校へ通わせてもらっていなかったとはいえ、聖女認定されてからは魔法の訓練もしています。その上で苦手なのですから、一ター朝で上達するなんて考えられません。にも拘わらず、アマリスの魔法は凄まじい進化を遂げたのです。</p>

	<p>ラッセルに魔法の師と言わせるだけのことはあると感心しました。あとネイトは本当にやばいですね。国王から注意されても、まったく聞いていません。ライズ王国への侵攻は確定したようなものでしょう。これをヴィクターたちが防げるかどうか、とても気になります。</p>
3巻	<p>ヒロインの真剣さゆえとはいえ、そんなに簡単に弟子にしてくれていいのでしょうか。にっこり笑顔のフレンドリーな姿は、自分が持つ魔術師像とは真逆。なんだかおもしろいと思えました。弟子入りの記念にお花を挿してあげるなんて、女慣れしすぎて。それとも天然ってことなのでしょうか。そこで花開くヒロインの笑顔は、氷の聖女なんてとんでもない。</p>
3巻	<p>魔術師ヴィクターもその弟子のロルフも本当にいい人たちです。氷の聖女なんて呼ばれてたのは笑顔を見せる余裕がなかったから。とにかくひどい境遇の中で耐え続けていたのです。そんな彼女に優しく声をかけてくれてお花とかプレゼントももらえて、うれしかったでしょうね。思わず見せた最高の笑顔にキュンキュンです。氷の聖女なんかじゃない。</p>
3巻	<p>魔術師のもとで魔法の修行とかいうととにかく過酷そうなイメージがありますが、この二人の師匠と弟子となら全然そんなことなさそうですね。むしろ自分だってその中に入って一緒に魔法をお勉強してみたくなるくらい。本当にいい人たちと出会えてよかったです。素敵な笑顔となったヒロインにかつての陰しきはありません。氷が溶けました。</p>
4巻	<p>急展開に驚いています。ネイトがライズ王国に攻め込もうとしても、国王というブレーキがありました。そのため、しばらくシュヴァール王国は動かないだろうと思っていたのです。まさかネイトがこんな凶悪な行動に出るとは思いもしませんでした。ライズ王国の重鎮たちも同じように考えていて、油断していたのでしょう。シュヴァール王国が攻めてくるという情報を掴んでいたにもかかわらず、喉元まで迫られることを許してしまいました。完全に不意を突かれた形となったため、ライズ王国が勝てるかどうか不安です。</p>
4巻	<p>ルキウスから王宮に滞在することを提案された際に、アマリスが何か言うよりも先にヴィクターが断ったのは彼女が自分の弟子だからという理由からでしたが、あまりの即答っぷりに、実はアマリスを手もとから放したくないという独占欲もあったんじゃないかと感じてちょっとドキドキしました。また、ルキウスが無条件でアマリスを保護しなかったのは少々意外でした。</p>
4巻	<p>王太子が婚約を破棄し追放した。やっぱりというか皆に情報は筒抜けというわけですね。誰に付けばいいのかとか勢力争いにも必要でしょうし、おもしろがって噂を広めている方たちもけっこういそう。追放されたらその後どうなるのか。その辺りは気にならなかったのでしょうかね。誰か手を差し伸べてくれる人がいればよかったのに。</p>
4巻	<p>意地悪な義母と義妹のせいで追放されることとなりましたが、そもそもは公爵家の娘であるヒロイン。なので王宮という華やかな場に戻ることができるというのは願ってもないことでしょう。とはいえ、自国ではなく監視されているような窮屈な状況だととても楽しめない。それよりはヴィクターたちのもとでのびのびという方がよかったりするのかも。</p>

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス